

第10回 新進演奏家 コンサート

2022 10/20 <THU>

三井住友海上しらかわホール

18:00<開場> 18:45<開演>

全自由席

プログラム

モーツァルト:オーボエ協奏曲 ハ長調 K. 314
.....<森 玲子>

シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54
.....<大竹 かな子>

ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲 第1番ト短調 Op.26
.....<牧野 葵>



指揮/松尾 葉子

セントラル愛知交響楽団特別客演指揮者



オーボエ/
森 玲子



ピアノ/
大竹 かな子



ヴァイオリン/
牧野 葵

お問い合わせ/チケット取扱い

山田貞夫音楽財団事務局 ☎ 052-533-6708
セントラル愛知交響楽団 ☎ 052-581-3851

管弦楽/セントラル愛知交響楽団

主催:



公益財団法人
山田貞夫音楽財団



松尾 葉子 *Yoko Matsuo* ~指揮~

1982年フランスのプザンソン国際指揮者コンクールで女性として史上初、また日本人としては小澤征爾について二人目の優勝という壮挙により、一躍注目を集める。名古屋生まれ。

1981年国際ロータリー財団の奨学生としてフランスに留学、パリ・エコールノルマル音楽院指揮科でピエール・デルヴォー氏に師事。1983年『若い芽のコンサート』でNHK交響楽団を指揮。1984年二期会公演の『メリー・ウイドウ』を指揮してオペラデビュー。1999年セントラル愛知交響楽団の常任指揮者に就任。2001年ニューヨーク・カーネギーホールにてベートーヴェンの第九を指揮。2017年1月にはアムステルダム・コンセルトヘボウにて「ヴェルディ：レクイエム」を演奏し、好評を博す。平成28年度愛知県芸術文化選奨を受賞。

著書「指揮者にミュージックが微笑んだ」(2003年論創社)、「指揮者、この瞬間」(2008年樹立社)がある。東京藝術大学指揮科教官を30年間務める。2015年～2020年まで愛知県立芸術大学客員教授。海外での活躍は1982年以来、プザンソン交響楽団、パリ・ラムルー管弦楽団、ベルギー・ブリュッセルの放送オーケストラのコンサート、録音等を手掛ける。

現在、セントラル愛知交響楽団特別客演指揮者。2022年から始まる「超!有名曲シリーズ」のメイン指揮者に就任。公式ホームページ <https://yoko-matsuo.com/>



森 玲子 *Reiko Mori* ~オーボエ~

愛知県一宮市出身。名古屋市立菊里高等学校音楽科、武蔵野音楽大学音楽学部卒。チューリヒ芸術大学大学院修士課程及びハンス・アイスラー・ベルリン音楽大学大学院修士課程修了。これまでにオーボエを山本直人、小川和代、吉成行藏、北村貴子、北島章、Ricardo Rodrigues、Thomas Indermühleの各氏に、イングリッシュホルンをMartin Frutiger、Gerd-Albrecht Kleinfeldの各氏に師事。

第16回中部日本管楽器個人重奏コンテスト個人部門最優秀賞合わせて松本市長賞、第7回ジュゼッペ・トマッシーニ国際オーボエコンクールセミファイナリスト。

2017年からフィンランドを拠点に活動し、クオピオ交響楽団副首席オーボエ奏者を経て、2020年9月よりラハティ交響楽団副首席オーボエ奏者に就任。また読売日本交響楽団、京都市交響楽団、日本センチュリー交響楽団、マレーシア・フィルハーモニー管弦楽団、フィルハーモニー・ライプツィヒ等に首席奏者として客演している。



大竹 かな子 *Kanako Otake* ~ピアノ~

愛知県尾張旭市出身。

愛知県立明和高等学校音楽科、愛知県立芸術大学音楽学部器楽専攻ピアノコースを経て、同大学大学院音楽研究科博士前期課程を首席修了。

大学在学中、選抜学生による音楽学部定期演奏会、音楽学部卒業演奏会、大学院最優秀修了演奏会等に出演。

第5回ヨーロッパ国際ピアノコンクールin Japan全国大会銀賞、第3回刈谷国際音楽コンクール最優秀賞及び審査員特別賞受賞。ラフマニノフのピアノ協奏曲第3番で受賞記念演奏会に出演。第10回横浜国際音楽コンクール本選大会最高位受賞。

2020年度北野生涯教育振興会音楽奨学生。

ジャック・ルヴィエ、ヨハン・シュミット、シプリアン・カツァリス等著名な音楽家のマスタークラス及び公開レッスンを受講し研鑽を積む。これまでにピアノを、伊藤仁美、丹羽つね子、長谷正一、本村久子、鈴木謙一郎、Irina Chukovskayaの各氏に師事。

現在はソロ、アンサンブルを中心とした演奏活動やオーケストラ客演演奏を行うほか、後進の指導にもあたっている。



牧野 葵 *Aoi Makino* ~ヴァイオリン~

3歳よりスズキメソッドにてヴァイオリンを始める。

愛知淑徳中学・高等学校を経て、愛知県立芸術大学音楽学部を首席卒業。併せて中村桃子賞、桑原賞受賞。同大学大学院博士前期課程を首席修了。併せて長久手市長賞を受賞。大学院在学中、ケルン音楽大学へ留学。2007年スズキ・テンチルドレンに選出され全国各地で演奏。第65回全日本学生音楽コンクール名古屋大会第1位。第2回刈谷国際音楽コンクール優秀賞及び審査員特別賞受賞。第3回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第3位。市川市文化振興財団 第31回新人演奏家コンクール最優秀賞。2017年東京文化会館で行われた読売新人演奏会に出演。自身初のリサイタル開催。2018年 セントラル愛知交響楽団とブラームスのヴァイオリン協奏曲を共演。2020年 愛知県立芸術大学管弦楽団とチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を共演。2015年度山田貞夫音楽財団奨学生。2016年度公益財団法人青山財団奨学生。2017年度北野生涯教育振興会音楽奨学生。平成27年度優秀学生賞受賞。2016年リゾナーレ室内楽セミナー、2017年ウィーン夏期講習会にてディプロムを取得、2021年北九州国際音楽祭に参加。これまでにヴァイオリンを、福本泰之、Skerdjano Keraj、桐山建志、篠崎史紀の各氏に師事。

東海・関東地方を中心に演奏活動、オーケストラ各演演奏、後進の指導にあたる。

セントラル愛知交響楽団

1983年ナゴヤシティ管弦楽団として発足。岩倉市との音楽文化普及事業委託契約による事業補助を受け1997年に現名称に改名。2009年一般社団法人となり、2021年4月に愛知県より認定を受け公益社団法人となる。2019年4月から常任指揮者に名古屋出身の角田鋼亮が就任。名誉音楽監督にレオシュ・スワロフスキー、桂冠指揮者に小松長生、特別客演指揮者に松尾葉子、首席客演指揮者に齊藤一郎、正指揮者に古谷誠一を擁し活動を行う。2020年度より公益財団法人山田貞夫音楽財団指揮者オーディション最優秀者をアソシエイトコンダクターとして迎えることとなり、2022年度は阿部未来、松川智哉が就任。定期演奏会、コンチェルトシリーズ、「第九」演奏会等の自主公演の他、バレエ、オペラ、ミュージカル等の依頼公演にも数多く出演。独自の構成によるプログラム、幅広いレパートリーを生かした学校公演、演奏者と聴衆の距離を縮めるような室内楽公演にも積極的に取り組んでいる。海外では2007年中国内蒙古自治区、2009年タイ・バンコク(文化庁国際交流支援事業)、2017年韓国・釜山(釜山マル国際音楽祭)で公演し成功を収める。2022年度からは「超!有名曲シリーズ」を含む新たなシリーズをスタートし、2023年の40周年に向け意欲的な試みを企画している。2015年半田市と音楽文化振興の協定、2019年一般財団法人稲沢市文化振興財団とも協定を締結。1996年「平成7年度愛知県芸術文化選奨文化賞」、2005年「平成16年度名古屋芸術奨励賞」、2007年「第2回名古屋音楽ベンクラブ賞」受賞。